

第三十六回 骨盤の仙骨と歯の咬み合せとの関係

骨盤は真中の仙骨 その左右の腸骨の3つからなりたっています。仙骨は底辺を上にした逆三角形をしているものです。

顎関節症をおこしますと、ほとんどの人は仙骨がズレをおこしているものです。

顎関節症が左側というならば、仙骨を正しい位置に持ってきますと右顎関節症になります。右顎関節症の人で、仙骨を正しい位置に持ってきますと右顎関節症です、左ではありません。

それは太陽の周りに地球その他の惑星も左回りです。海の回遊魚も左回り、人間も運動場を走るのも左回りです。

その為にほとんどの人は「きき手」は「右きき」となります。

「左きき」の人は「右きき」になれますが、「右きき」は「左きき」には中々なれないものです。

歯の片側咬み、又は咬み合せの低い側へ仙骨の下部がその側に横にズレ、上部はその逆の方向に横ズレをおこします。

頭蓋骨のズレ及び上顎の真中の正中小帯（前歯の歯肉のところのヒラヒラ）

下顎の小帯の正中が合っていない状態で上下の歯が左右共しっかり噛んでいる状態であっても血流・筋肉・骨格の異常をおこし、体全体の異常をひきおこすものです。

つまり仙骨がズレますと頭蓋骨の後頭骨も同じ方向にズレをおこし頭蓋骨を支えている首の骨もズレをおこします。

仙骨の横隣りの腸骨との隙間に異常をおこしますとギックリ腰の原因となり、片側の隙間の広い側に痛みが出ます。

ところが上下の歯の咬み合せの高さを必要以上に高くすると仙骨と左右の腸骨の間の隙間がすべて広くなり、腰が中腰のようになって痛くて立つことが出来なくなる状態をつくりま

す。逆に上・下の歯の咬み合せは低くなりすぎますと、仙骨と左右の腸骨の隙間が狭くなり、平らな道でも歩いてつまづく事になります。

（老人は顔もシワシワ、背骨の骨と骨の椎間板軟骨も水分が減り身長が低くなるようにこの隙間も狭くなる）

そしてこの隙間が広すぎても狭すぎても腰から足先 又は腕・手が冷たく、さらにひどくなりますと全身の冷え性の状態となります。

そしてさらに顎関節症がさらに悪くなりますと仙骨の上には背骨の下の方には腰椎又は腰椎と仙骨の間にある腰仙関節に異常をおこし、腰痛ヘルニア等がひきおこします。これらの腰痛等がありながら顎関節症に手をつけてはいけないことです。

又、仙骨は呼吸に合わせて生理的運動をおこないます。

つまり、仙骨の上部が前方へ傾けば下部は後方へ、上部が後方に傾けば下部は前方へと動きをするものです。

それも頭蓋骨から仙骨迄、血流・脳脊髄液等がこの運動のポンプ作用で運んでくるものです（海の波が沖から陸地に向かってくるように・・・）

その軸が歯のかみ合せの高低によって仙骨の上部と下部が振り子運動のように動き、その支点が歯の咬み合せの高さにより によって上下移動するものです。

上下の歯の正常な高さならば真中に来るものです。首の骨も生理的な前湾曲するものです。ところが入れ歯に磁石をつけたり、歯の矯正治療をしたり人工歯であるインプラントをつけていたりしますと、頭蓋硬膜の緊張をおこし、最初は頭の後と足のアキレス腱の内側に「ショウキョウ関節」のところから緊張をおこし、徐々に日数が経つに従って頭と足から中心に向かって硬膜の緊張をおこし2~3年間で体全体の異常をひきおこすものです。

野球の選手がインプラントを入れた時はいいが日が経つにつれて体の異常をおこし4番打者は今……。年若くして引退したりする選手も……。

又最近歯の咬み合せにより体の骨格のバランスが変わり交感神経・副交感神経の関係も情報が流れています。副交感神経が優位ですと昼間が眠くてしかたがない。

夜はその逆とか、病気がちの人が多ようです。副交換神経よりもやつ交換神経を優位な歯の咬み合せをもってくると、体が楽という人が多い様です。

癌の病気に罹っている人は副交感神経の方が優位です。つまり昼間が眠いということです。